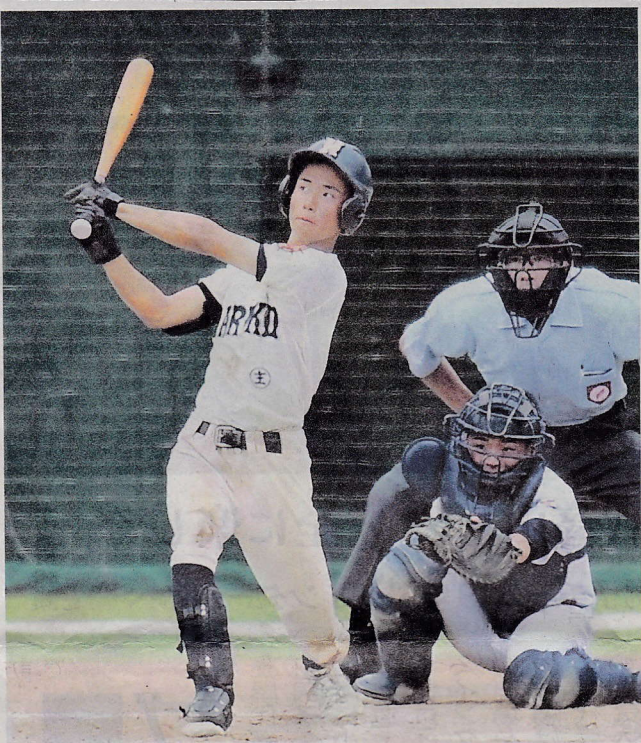


# 父の助言 本塁打で恩返し

丸子修学館・中村主将「心強かった」



本塁打を放つ中村選手

高校  
野球  
長野大会

丸子修学館（上田市）は9日、長野市の長野オリンピックスタジアムで1回戦に臨んだ。主将を務める中村恒陽選手（18）は公式戦自身初となる本塁打を放つなど活躍。中野立志館（中野市）に2―5で敗れたが、高校野球経験者で常に自分を見守ってくれた父真樹さん（52）への感謝を口にした。

中村選手は小学4年の頃から、休日には真樹さんと共に練習を続けてきた。高校に入り、親子の会話は少なくなったが、真樹さんは無料通信アプリ「LINE（ライン）」を通じ、応援に行った試合で撮影した打撃フォームなどの画像にアドバイスを添え、繰り返し送信した。中村選手は照れくさく感じ、返信することはなかったが「ずっと見守ってくれて心強かった」と話す。

この日、中村選手は2点を追う四回表、1点差に迫るソロ本塁打を打った。試合終了後、中村選手は悔し涙を流しながら「今日のホームランは、父のおかげ。このボールと一緒に『ありがとう』と伝えたい」と、手にしたホームランボールを握り締めた。